

森と共に生きるまち宍粟の

みどりじまん新聞



Vol. 8

令和4年5月号



バックナンバーは
こちら

木育 過去ニュース

2019年3月23日-24日
初の「木育キャラバン」
木のおもちゃが大集合



宍粟市で林業を学ぶ

研究者 黒田 侑希

私は、兵庫県立森林大学校で林業について学ぶために、令和3年4月に岡山県真庭市から宍粟市に came ました。真庭市は昔から林業が盛んな地域で、林業分野への就職を考え、林業が学べる学校として森林大学校を選びました。

今回は森林大学校での授業を紹介します。

●最初の授業は林業の歴史

入学後、すぐに本格的な林業の専門科目の授業が始まります。私が最初に学んだ日本の林業の歴史や現状では、明治初期の日本は、多くの山がはげ山になっていたことを聞きました。近代化による木材利用の拡大や生活の燃料として使うために木が多く伐採され、植林されずにそのまま放置されたため、樹木の生えていない山が増えたようです。その結果、当時は土砂崩れや水害が多発していました。戦後は、復興のため木材が不足していたことから、スギやヒノキが多く植えられました。山は緑

を取り戻しましたが、管理が行き届かず荒廃し、森林としての機能が低下している山もあります。木は、伐りすぎても、風や雪に対して弱くなるので、きちんと人が手入れすることが健全な山の管理に繋がります。私はこの授業から、林業には人々を守る重要な役割があると知り、林業をより一層勉強したいと思うようになりました。

●多様な実習授業

入学後には専門科目の授業に加え、実習の授業もすぐに始まります。樹木学実習では、県立国見の森公園などで樹木の枝や葉を採取し、植物標本を作成しました【写真1】。植物標本は、採取した植物を新聞紙等に挟み、押しつぶした状態で乾燥させたもので、これを使って名前や形など植物の特徴を覚えていきます。

また、市内にある高樹齢の木や神社等に祀られる御神木を見て回る授業では、樹種や直径など木の特徴を直接調べます。



【写真1】樹木学実習
植物標本づくり

私は調査した巨木の堂々とした佇まいに感動しました。また、林業機械の実習で最初にしたのは、下刈り作業です【写真2】。



【写真2】林業機械実習
河原山国有林 下刈り

下刈りとは、植えた木の苗が健やかに育つように、周りの雑草などを刈り取る作業のことです。木の苗は周りの雑草などが大きくなると日光が当たらなくなり、生育が悪くなったり枯れたりしてしまふため、植林後の数年間は下刈りをしなければなりません。先輩たちが下刈りしてきた場所を、私たちが引き継いで下刈りなどの管理をします。

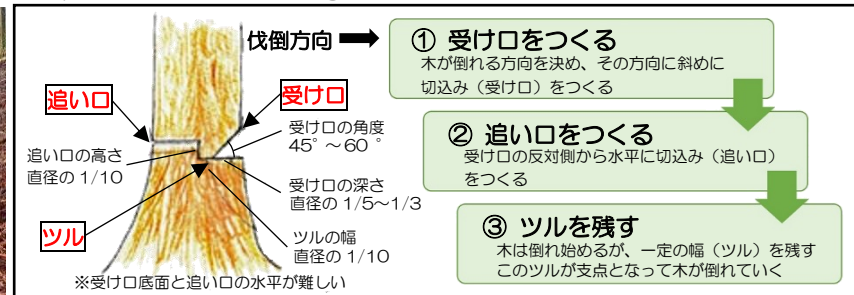
「みどりじまん新聞」は

“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

続いては、チェーンソー
 実習で、木を伐り倒す（伐倒）方法を学びます【図1】。
 伐倒の動作をスムーズかつ
 正確にこなせるように、山
 に入る前に校庭で何度も練
 習をし、実際に山林内での
 実習を行います【写真3】。



【写真3】 チェーンソー実習



【図1】 伐倒手順（受け口、追い口、ツルの作り方）

める集材は、大きなツメで物を掴むグラップルと呼ば
 れる機械を操作して行います【写真4】。その運
 搬は、集めた木材を荷台に積んで山林内の作業道を



【写真4】 グラップル



【写真5】 フォワーダ

運ぶフォワーダと呼ばれる機械を操作して行
 います【写真5】。ここで運んだ丸太は、森大
 大学の林業機械の練習用として使われた
 り、バイオマス発電所の燃料用チップとして
 利用されたりします。

●学外学習での学び

「林業で捨てるものはない」

学外学習では、協同組合兵庫木材センター
 へ見学に行き、木材加工について学びました。
 山から運び出された丸太は、機械で住宅の
 材料となる角材などに加工されますが、この
 ときに発生する樹の皮や木くず・余分な切れ
 端（端材）は、木材を乾燥させる際の燃料と
 して利用されています。木を有効活用できる
 だけでなく、石油・石炭など化石燃料の使用
 量が減ることで、環境への影響を軽減する
 ことにも繋がります。また、端材は細かく砕
 かれ、紙の材料のパルプにもなります。

●私がめざす「これからの林業」

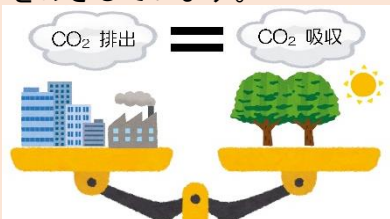
私は入学以来、木や木材に関するこ
 とを学び、林業が森林の持つ機能を守
 ることに繋がっていることや、豊かな
 森林によって私たちの生活が成り立
 っていることを知りました。また、林
 業の現場で働く人の話を聞くことで、
 戦後より人々が苦勞して植林し、木を
 育てられてきたことを学びました。

最近では、カーボンニュートラル
 （左図参照）の考えから、木材を生産
 する際に出る端材などをできるだけ無
 駄にせずに利用する循環型の林業の
 達成が必要とされています。

私は、木の加工から森林の経営まで
 幅広く学び、大切な資源である木を生
 産するための森林を保全し、次世代に
 引き継いでいきたいと思っています。

“カーボンニュートラル”とは？

地球温暖化の主な原因とされる
 二酸化炭素（CO₂）などの排出量
 と吸収量を同じにする取組。
 日本をはじめ世界120ヶ国以上
 が2050年までに達成すること
 をめざしています。



専修学校
 兵庫県立森林大学校
 Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる
 人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校HP



木育は、「持続可能な開発目標SDGs」の実現につながる取組みです